



報告者

賀照田

中国社会科学院
文学研究所研究員

コメンテーター

村田 雄二郎

同志社大学
グローバル・スタディーズ研究科教授

司会

鈴木 将久

東京大学
人文社会系研究科教授

賀照田先生

中国「第三世界論」の思想的体質：
1974年鄧小平の国連総会演説を手がかりとして
中国“第三世界论”的思想体质
—以1974年邓小平联合国大会的讲话为聚焦分析线索

今回のセミナーでは、中国の第三世界論の代表的な文献である1974年鄧小平の国連総会演説を分析したい。中国の自己感覚と世界感覚は、伝統の延長線上にあり、いまだ十分な反省がなされていない。それは、かつて中国で圧倒的な地位を占めたインターナショナリズム、第三世界論などの観念が、中国で根づかないことの根本的な原因であり、また中華人民共和国において、建国以来70年を経ても、あるときは過度に外界に依拠して外界を基準とし、あるときは過度に自己を肯定して外界を無視するような、人を困惑させる歴史現象がくり返し現れる原因でもある。

そこで今回のセミナーでは、現代の世界において、いかなる自己感覚と世界感覚の意識を持ち、そのための努力することが、中国で自己と世界に対して有益な自己感覚と世界感覚を構築することに有益かという問題を考えてみたい。

今回のセミナーで、報告者の賀照田氏は、長いあいだ考えてきたこの問題を、はじめて正面から論じる。中国、および中国と世界の関係に関心のある皆さまの参加をお待ちしている。



使用言語：中国語（日本語同時通訳あり）

4月9日(土) 15:00 - 18:00

Zoom開催 **事前登録制 (4/7㊄切)**

お申込はQRコードから

报告人

贺 照田

中国社会科学院
文学研究所研究员

评议

× 村田 雄二郎

同志社大学
Global Studies 研究科教授

主持/翻译

× 铃木 将久

东京大学
人文社会系研究科教授



贺照田先生

中国「第三世界論」の思想的体質：
1974年鄧小平の国連総会演説を手がかりとして
中国“第三世界论”的思想体质
—以1974年邓小平联合国大会的讲话为聚焦分析线索

本讲座尝试通过对中国最经典的三个世界论文献——“1974年邓小平在联合国大会的讲话”等的聚焦分析，提出如下思考：延续自传统、至今未得到充分反省的中国自我感和世界感方式，不仅是曾经在中国具笼罩性的国际主义、第三世界观念等未能在真正扎根的核心原因，也是中华人民共和国建国70余年如下令人困扰的历史现象——过度拥抱外界、以外界为当然标准，和过度自我肯定、对外界很不以为然——反复出现的深层原因。

由之，本讲想进一步尝试对如下问题作出讨论：身处现代世界，什么样的自我感知和世界感知意识与努力途径，会真的帮助中国建立起无论对自身还是对世界都有益的自我感与世界感来。

这是讲者第一次正面尝试表达其酝酿多年的有关思考，欢迎对中国、对中国与世界关系问题有兴趣的朋友报名参加本次活动。



使用语言：中文（日语同声传译）

讲座时间：4月9日15:00 -18:00（日本时间）

参加方式：扫左方二维码报名参加Zoom线上会议（4/7截止）

※如页面无法显示Google申请表单，请以「参加4/9讲座」为邮件标题，发送“姓名、单位、电子邮箱”至东京大学人文研究中心邮箱“humanitiescenter.utokyo@gmail.com”获取Zoom信息。